

国際経済情勢と日本

慶應義塾大学教授
白井^{しら}さゆり



- * コロナ感染危機の功罪
- * 好調経済が急激に屈折する米国
- * 五輪延期とコロナ禍のダブルパンチ
- * スピード感に欠ける日本
- * 米国はリーマン不況時以上の金融緩和
- * 支援に躊躇の姿勢が鮮明な日本銀行
- * 日本はV字型ではなくU字型の回復
- * 欧米で顕在化必至の企業債務問題
- * 予想されるコロナ後の世界像
- * 重要なのは成長より持続性を高める努力

柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は慶應義塾大学の白井さゆり先生にお願いいただきました。コロナ禍の状況でございますが、世界の経済情勢はどういうふうになっているのか、それから日本がどういう影響を受けているのか、どうなっていくのか、全般的なお話をお伺いしたいと思います。それではよろしくお願いたします。

コロナ感染危機の功罪

白井 慶應義塾大学の白井です。どうぞよろしくお願いたします。

今日は「世界経済情勢と日本」というテーマでお話を進めていきたいと思えます。まず第一部は「世界におけるコロナ危機の特徴」として、

簡単に現在の危機の特徴について申し上げます。第2部では、世界経済に最も影響を与えているのはアメリカですので、「米国の経済情勢」についてコロナ危機が起こる前と現在について述べたいと思えます。第3部では日本経済について、コロナ危機前とコロナ危機以降の状況について見ていきます。第4部では、日本やアメリカなどの主要国がコロナ危機後にどういう財政・金融経済対策をとってきたのか、その特徴と若干の比較をしたいと思えます。最後に、各国の経済は回復に向かうと思えますけれども、経済政策が今までと同じでいいのか、われわれが当たり前と思ってコンセンサスとしてきた経済政策に対する考え方は再考する必要があるかもしれないということなどを申し上げます。